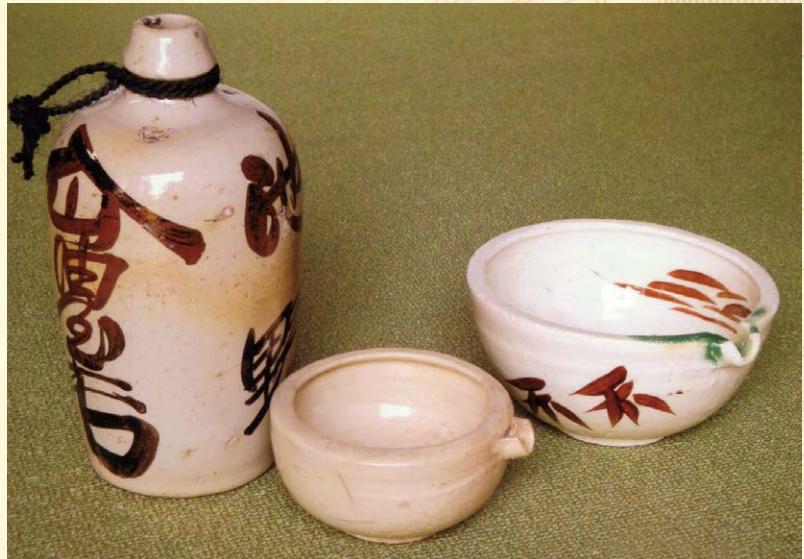


片口  
かたくち



▲片口(徳利は参考品)

♪トントントンカラリンと隣組  
格子を開ければ顔なじみ:

ラジオから流れたこの歌を憶えていらっしゃるでしょか。もう七十年以上も昔、戦時中でした。歌詞の中に「教えて頂戴味噌醤油」とあります。当時は農家のみならず町の人も大豆や小麦を使つて作ったのです。冬の間に仕込んだ味噌、醤油の樽や半斗(陶器・梅干用)が勝手場の隅に並んでいました。殆どの食糧は<sup>※①</sup>配給品の時代です。味噌は大きな杓文字で取出し、醤油は木柄杓で片口に汲み、台所の棚に木蓋をのせて置き料理の際に使つていました。現在の様にラベル瓶などない頃です。

それが昨年北陸へ行つた折、昼飯屋で片口を使ってみえたのを見て懐かしくなり、物置を探したら埃まみれで出てきました。大きい醤油用(五合)のを嗅いだら、裏底は昔の匂いがぬけていません。多分塩分が素焼きの部分に滲み込んでしまっているのでしょうか。小さい方(一・

五合)は酒を通い徳利(一升)から受けそれを跳子に移す、いわば漏斗として使いました。これは徳利の残り具合を見る為でしょか。テレビドラマの時代劇では薬湯を飲ませるのに片口を使つていましたから「樂呑み」だったのか。また片口で酒を茶碗に注いで呑んでいるので冷酒だろうなど勝手に解釈していますが、皆さん如何ですか。

醤油用と酒用は大小の違ひだけでなく口の形が違いますが、そのまま注ぐのと移し換え用の為か、知つている方は教えて下さい。

#### 【語句説明】

「配給品」 戦時中、一家の人数に合わせ米など食糧の他、生活必需品を求める為買物券が配られ、それで購入した。(そうでないのは賃物資)